

Matsunaga Head Line News

[マツナガ・ヘッドライン・ニュース]

〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号 TEL: 0120-980-633 FAX: 048-798-0075

MATSUNAGA 感動創造建設会社

2026年4月発行 発行元: 松永ホールディングス 発行人: 松永大祐
www.matsunaga.gr.jp

2026 April Vol.61



SR平野社長と大いに語る 地下鉄延伸の意義と 街づくりの使命

CONTENTS

INTERVIEW インタビュー

P2 埼玉高速鉄道株式会社 代表取締役社長 平野邦彦様

PROPERTY 竣工物件

P4 (仮称) 町屋PJ / (仮称) 足立区西新井本町2丁目テナントビル計画

P5 bond square 01 / 大宮駅西口第五地区まちづくり用地整備工事(ゼロ債)

TOPICS トピックス

P6 令和8年度 入社式 / ラジオCMリニューアル

健康経営優良法人2026 (プライト500)

県土づくり優秀建設工事施工者表彰・優秀現場代理人表彰

INTERVIEW インタビュー

SR平野社長と大いに語る 地下鉄延伸の意義と街づくりの使命

松永建設が提供するYouTubeチャンネル「まつけんチャンネル」では、毎月「少年のように夢を追い続ける」様々な経営者の皆様を紹介する「月刊社長少年～Tomorrow Never Knows～」を配信しています。今回は、3月配信のSeason2 episode-8にご登場いただいた、埼玉高速鉄道株式会社代表取締役社長・平野邦彦様のインタビューより抜粋してお届けします。テーマは「埼玉高速鉄道（地下鉄7号線）浦和美園～岩槻延伸」。さいたま市民の悲願を共に実現しようとする両者が、街づくりへの思いを語り合いました。



埼玉高速鉄道株式会社
代表取締役社長
平野 邦彦（ひらの くにひこ）

福岡県門司市（当時）で生まれ、東京工業大学（当時）土木工学科卒業・大学院修了後、国鉄に入社。分割民営化後はJR東日本に入社。以降、横浜支社長、常務執行役員総合企画本部副本部長などを歴任。同社では高輪ゲートウェイ駅や渋谷駅など、大型ターミナル周辺の大規模開発に多く携わる。その後、株式会社鉄道会館代表取締役社長、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 理事長代理などを経て2024年より現職。

バトンをつないで実現する鉄道開通の夢

松永 平野社長のご出身は北九州の門司港で、東京工業大学（当時）の土木工学科へ進まれ、日本国有鉄道（国鉄）時代は土木技術者として現場で仕事をされていたのですよね。もともとモノづくりに関心があったのですか？

平野 そうですね、子どもの頃から図工が大好きで。本当は建築家志望で建築学に進みたかったのですが、点数が足りなくて土木工学科になったのです（笑）。ただ、祖父が土木の設計技術者だったので、DNAに刻まれた縁を感じてはいました。

松永 鉄道の敷設もそうですが、土木は本当にロマンのある仕事ですよね。国土を切り拓き、人々の生活基盤を生み出す、そのスケールの大きさが魅力だと思います。

平野 また、土木はチームワークの仕事でもありますよね。技術者同士はもちろん行政との折衝もありますし、ガスや水道、電気などの他のインフラについても理解し、その事業者との連携が必要です。「総合技術力」とよく言われますが、各領域の専門家や関係機関の知見・技術を統合して大

きな仕事を成し遂げることが、土木の面白味ですね。

松永 プロジェクトの規模でいえば、平野社長は国鉄時代に青函トンネルの貫通にも立ち会われたそうですね。

平野 1980年代に入社してすぐのことで、北海道側から掘る工区の担当でした。最後にダイナマイトで発破をかけて双方から掘ったトンネルを貫通するのですが、その瞬間に本州の風がスーッと抜けていった感触が忘れられません。これは土木技術者として自慢しているエピソードです（笑）。もちろん、20年以上も工事を担ってきた方々に比べ、私は最後に少し関わったに過ぎません。それでも、あの瞬間に凝縮された関係者の、20年越しの思いを肌で感じられたことは貴重です。

松永 長いプロジェクトの節目に立ち会った経験が、今の埼玉高速鉄道（以下、SR）延伸への向き合い方にも繋がっているのでしょうか。

平野 そうですね。鉄道の開発は長期に渡り、最初に仕込む人、途中で推進する人、最後に完成させる人と時間軸の中で役割があり、一人が一気に貫通ですべてを担うことはまずないのです。今回のSR延伸もそういうプロジェクトで

すね。私も前任者からバトンを受けた身であり、自分の「未来につなげる役割」を意識しますね。

高輪ゲートウェイで学んだ街づくり

松永 その後、平野社長は民営化後の東日本旅客鉄道（JR東日本）に転籍の直後、信託銀行へ出向されたそうですね。これはどのような転機になりましたか？

平野 いきなり「信託銀行に行け！」と言われて驚きましたが、要は「信託銀行で不動産開発を勉強しろ」という話だったのです。バブル最盛期であり、信託銀行は工場跡地の再開発計画などを他社と競いながら地権者に提案していました。2年間の在籍でしたが、民間企業の考え方を理解し、クライアントを動かすための計画立案とプレゼンの視点を学びました。また、開発計画を立て、需要に即して「ビルの高さはどうするか」といった建築設計にも携わって工事費を算出し、採算性をはじいて事業化の可否を検討する。その一連の不動産開発におけるビジネスの考え方を鍛えられたと思います。

実際、JR東日本に在籍して一番長く携わったのは、大

規模ターミナルの開発事業です。高輪ゲートウェイをはじめ、渋谷、新宿、横浜、千葉、東京駅八重洲の再開発にも携わりました。

松永 鉄道の開発を超え、駅周辺を含む街づくりに携わってこられたんですね。まさに高輪ゲートウェイは「鉄道があつて初めて街が発展する」ことを示しましたね。

平野 そうですね。高輪ゲートウェイは初期プランニングに携わりましたので、行政と協議して都市計画決定をもらい、事業収支をはじいて「やるか、やらないか」を判断する重要なポジションでしたが、その際、「駅の建設」と「街づくり」は一体でなければいけないことを強く意識しました。「自分たちの駅と駅ビルを建てて終わり」では、駅は孤立してしまい街が育ちません。駅と周辺の街の関係性をきちんと想定し、血管に血が流れるようにつなげておかないとならないのです。

具体的には、例えば、様々な街のステークホルダーとのつながりをつくり、関係性を調整することも含まれます。もちろん、うまく話がまとまらないこともあります。でも「そんなの当たり前だ」と思わないと街づくりなんてできません。AがダメならB、C、Dと、次々と手を打つ粘り強さがプロジェクトの成就には必要でした。これはSRの延伸でも、同じことが言えると思っています。まだ道半ばですが、強い信念を持ってプロジェクトを頓挫させず、未来へのバトンを繋いでいきたいと思っています。

「盲腸線」のままでは、街は壊死する

松永 SRの延伸は、弊社が本社を構える岩槻区、ひいてはさいたま市民にとって長年の悲願です。平野社長は、この延伸の重要性をどのように捉えていますか。

平野 SRは浦和美園駅で路線が途切れている「盲腸線」なのです。鉄道というのはネットワークなので、血管と同じで繋がってなければ血流が滞り壊死してしまいます。SRが岩槻まで延伸することで他の路線と接続し、鉄道ネットワークがさらに強固になります。

松永 鉄道ネットワークが強化されることで、具体的にど

のようなメリットがあるのでしょうか。

平野 例えば、埼玉スタジアムへのアクセスが大きく変わります。今は大宮駅から浦和美園駅で降りてスタジアムに向かうと、大回りで時間がかかりますが、SRが岩槻駅に延伸し、さらにスタジアムに近い途中駅を設けることでトータルの時間は約半分になります。大宮を基点にした新幹線ネットワークとも接続が改善されますから、スタジアムの価値も上がり、岩槻にも人が流れるようになって、観光需要も含めて周辺エリアに発展の余地が生まれます。

また、災害対応にも貢献します。東日本大震災のとき、地上の鉄道が動かない中で、地下鉄は当日夜9時頃から動いていました。SRも地下鉄ですから、災害時に都心とのアクセスを確保できる意義は非常に大きいと思います。

松永 SR延伸の実現可能性について、今はどのくらいのところまで来ていると感じていますか？

平野 私が2024年に社長に就任した当初は、プロジェクトの一合目にも進んでいなかったと思うのですが、埼玉県とさいたま市、運輸機構（JRTT）と当社でチームを組み、事業性を検討・評価し、費用負担の比率も決まり、実質的な合意に向けて一歩、二歩進んだという感触を得ています。鉄道というのは動輪が重くて最初は簡単に動きませんが、動き出すとどんどん加速していきます。プロジェクトも同様で、ようやく加速に向かうフェーズに入ったと感じています。

近年の資材・人件費の高騰は逆風であり、総工費は約1,500億円規模ともいわれますが、私は「やるなら今だ！」と思っています。実現すれば、経済効果はその何倍にもなるからです。鉄道の建設が確定することで都市計画が動き、民間企業が誘導されて街が育っていく。その街づくりのストーリーを、しっかり進めていかなければなりません。

松永 応接室に飾られた「延」と「伸」、それから「共にその先へ」という書に、その思いが込められていますね。

平野 私が社長になったときに、「延伸」をみずからのミッションとしたのです。「延」は線路を延ばすこと、「伸」は人材の個性を伸ばし企業を成長させることを意味します。別々に飾っていますが、SRの延伸が成就した暁には、



この2文字を一つの額に入れようと考えています。

また、「共にその先へ」は、社内の垣根を越えたワンチームへの想い、また、SRの延伸を通じて自治体や企業を含む地元の方々と一緒に、新しい未来の街づくりへと進む想いを込めています。

松永 やはり、街の発展には人流の大動脈である鉄道と駅ができることが重要です。そのうえで、官公庁や鉄道事業者任せにせず、民間がどれだけ主体的に街をつくれるか——それが私たちの使命だと思っています。岩槻延伸という悲願に向けて、ぜひ一緒に歩いていければと思います。

平野 そうですね。街というのは、成長すれば老いて廃れもします。この鉄道の延伸を、成長のステージにして欲しいのです。ぜひ、地元に住まう方々や企業の皆様も、自立的に「街をどうするか」を考え、アイデアをいただきたいと思っています。一緒にやっていきましょう！



平野邦彦社長のインタビューは、こちらの動画から見られます。青函トンネルが開通した瞬間の思い、SR岩槻延伸にける情熱を、その語り口から感じてください。



社長少年 Tomorrow Never Knows SEASON 2

これまでの 配信エピソード

登場するのは、少年のような夢を追いかけ続けている魅力的な若手経営者やリーダーたち。先人たちの意志を受け継ぎながら悪戦苦闘。いまや成功への道を歩みながらも、決して忘れない少年時代の夢。彼らの人生の転機やスイッチが入った瞬間を知ることが、あなたの未来への大きなヒントになるかもしれません！

Season.1

- 株式会社ロイヤルコーポレーション 田島 永一社長
- 株式会社ホソカワコーポレーション 細川 恵多社長
- 株式会社荻野精機製作所 荻野 真也社長
- プロゴルファー 宮里 美香選手
- プロレーサー 片岡 龍也選手
- 株式会社アクト 伊藤 啓介社長
- 日本女子プロサッカー・WEリーグ 小林 美由紀理事(当時)
- 株式会社FPコミュニケーションズ 浦田 健社長
- 株式会社サイサン 川本 武彦社長(当時)
- 参議院議員 古川 俊治議員

Season.2

- 衆議院議員 村井 英樹議員
- 株式会社三和商会 小宮 康一郎社長
- 埼玉県議会議員 小島 信昭議員
- 株式会社アンバー 田中 謙太郎社長
- 株式会社松永建設 松永 大祐(番外編)
- ビジネス・ブレイングループ 畑中 孝介税理士
- ソマール株式会社 曾谷 太社長
- 元・竹中工務店専務執行役員 増村 清人さん

松永建設公式YouTubeチャンネル
「まつけんチャンネル」から
是非、ご覧ください！



PROPERTY 竣工物件



▶ (仮称) 町屋PJ ◀

〈発注者：D様〉

DATA

□ 竣工年月：2025年6月 □ 規模/構造：11階建/RC造
□ 延床面積：2,049.81㎡ □ 敷地面積：348.58㎡ □ 所在地：東京都荒川区



▶ (仮称) 足立区西新井本町2丁目テナントビル計画 ◀

〈発注者：田中栄一様〉

DATA

□ 竣工年月：2025年6月 □ 規模/構造：5階建/S造
□ 延床面積：1,802.21㎡ □ 敷地面積：816.28㎡ □ 所在地：東京都足立区



▶ bond square 01 ◀

〈発注者：株式会社bond group holdings 様〉

DATA

- 竣工年月：2025年12月
- 規模/構造：9階建/RC造
- 延床面積：875.49㎡
- 敷地面積：197.51㎡
- 所在地：埼玉県さいたま市



▶ 大宮駅西口第五地区まちづくり用地整備工事（ゼロ債）◀

〈発注者：さいたま市 様〉

DATA

- 竣工年月：2026年1月
- 工事内容：用地整備工事
- 工事場所：さいたま市大宮区大成町1丁目地内外

TOPICS トピックス

令和8年度 入社式を開催！

4月1日、松永建設本社にて入社式を執り行いました。今年度は10名の新入社員が、松永建設グループの一員となりました。式典で見た清々しい表情と、未来への意欲に満ちた眼差しは既存社員にとっても大きな刺激となります。新時代の担い手とともに、より良い社会づくりに全力を尽くしてまいります。



「まつけんチャンネル」で配信中！



松永建設ラジオCMをリニューアル

FM NACK5 (79.5MHz) で月曜日から金曜日の朝8時30分より放送中のラジオCM「まつけんRADIO」を、4月1日より新たにリニューアルしました。松永社長をはじめ松永建設グループの社員が出演し、松永建設の魅力や建設への想いを「生の声」でお届けしています。ぜひお聞きください！



「まつけんチャンネル」で配信中！



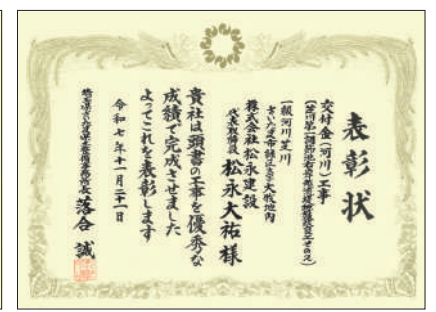
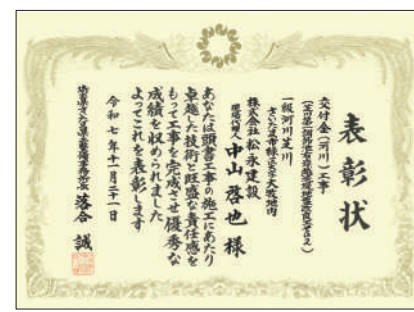
「健康経営優良法人2026 (ブライツ500)」に2年連続で認定されました

この度、弊社は経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人2026 (ブライツ500)」に2年連続で認定されました。「ブライツ500」とは、中小規模法人部門において、健康経営優良法人の中でも特に優れた上位500法人に対して付与されるものです。今後も社員が心身ともに健康で、いきいきと活躍できる職場環境づくりに取り組んでまいります。



「令和7年 埼玉県県土づくり優秀建設工事施工者表彰・優秀現場代理人表彰」を受賞しました

この度、弊社は「交付金(河川)工事(芝川第一調節池右岸越堤地盤改良工 その2)」において、さいたま県土整備事務所より「令和7年 埼玉県県土づくり優秀建設工事施工者表彰・優秀現場代理人表彰」をいただきました。この表彰は、施工に関して特に優れた成績をおさめた工事業者と、その現場技術者に贈られます。



受賞者コメント

土木事業部 係長 中山啓也 (写真右)

「この度は名誉ある表彰をいただき、大変光栄に存じます。本工事は、発注者の皆様のご指導のもと、安全管理と品質確保を最優先に、協力会社の皆様と一体となって取り組んでまいりました。この受賞は、現場に携わった多くの関係者のご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。今後も社会基盤整備の一端を担う技術者として、より一層、地域社会に貢献できるように努力してまいります」

